

平成 28 年第 1 回那覇港管理組合議会（2 月定例会）

平成 28 年度（2016 年度）  
施政方針

平成 28 年 2 月 9 日

那覇港管理組合

## 平成28年度（2016年度）施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

平成28年第1回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたっての施政方針について申し述べ、議員各位、県民・市民の皆様のご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

### 1. 運営の基本姿勢

那覇港の昨年の主な動きとしましては、3月に国から「みなとオアシス なは」の認定をいただき、4月は大規模ハブ港湾である高雄港等を有する台湾こうむ港務株式会社（TIPC）との間で「パートナーシップ港に関する合意書（MOU）」を締結しました。

また、コンテナターミナルに関しまして、5月にガントリークレーン4号機の供用を開始し、国際標準である1バース2機体制を整えました。さらに、12月には我が国の代表的な総合物流会社である三井倉庫株式会社が新たな中核企業となった那覇国

際コンテナターミナル株式会社(NICTI)との間で、今後10年間の賃貸借契約を更新するなど、様々な進展がありました。

昨年的那覇港公共国際コンテナターミナルでの外貿コンテナ取扱貨物は、速報値で合計約7万2千TEU、平成26年から約11%減でしたが、新たなNICTIによるコンテナターミナル運営が今年1月から始まり、取扱貨物量の増加に向けた取り組みが期待されます。

今後、港湾施設の整備と合わせ、国内外へのポートセールスや輸出貨物増大などの取り組みを着実に実施し、港湾機能の強化を図ってまいります。

人流面のクルーズ船につきましては、昨年は初の3隻同時寄港や16万トン級クァンタム・オブ・ザ・シーズの初寄港など過去最高115回の寄港を記録しました。クルーズターミナルにおいては、ボーディングブリッジとエプロンルーフを設置し、利便性・快適性をさらに向上させました。

今年は、現時点で、昨年の約1.5倍となる 約170回の寄港予約が入っております。

急増するクルーズ船の需要に対応するため、今後とも、観光部局等関係機関と連携・協力して、安全で円滑なクルーズ船受け入れや、第2バースの早期整備に向けた取り組み等を進めてまいります。

一方、大規模災害への対応や一部老朽化した港湾施設の改修についても十分な対策を行い、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めてまいります。

## 2. 平成28年度予算編成

平成28年度の予算編成に当たっては、ただいま申し述べました基本姿勢に基づき、また、限られた財源の中で沖縄振興特別推進交付金を積極的に活用しつつ、重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、平成28年度予算案は、

一般会計において50億4,237万6千円  
特別会計において18億2,041万2千円  
の規模となっております。

### (主要事業の説明)

平成28年度の主要事業について、4つの重点施策に沿って説明いたします。

#### 1) 流通港湾としての機能強化

物流機能の高度化を図るとともに、流通加工等で新たな価値を付加する機能を有する那覇港総合物流センター整備では本体工事に着手します。また、片荷輸送の解消に向けて、輸出貨物増大のための社会実験を行います。

#### 2) 国際観光・リゾート産業の振興

急増するクルーズ船の需要に対応するため、クルーズ客を受け入れるための歓迎セレモニーや各種イベント等を実施します。また、第2バースの早期

整備に向けた取り組みを進めてまいります。

ポートセールスでは、クルーズ専用の泊8号岸壁での利用平準化に努めてまいります。

離島航路の拠点である泊地区において、離島住民や観光客の快適性・利便性の向上を図ってまいります。

### 3) 安らげる空間づくり

臨港道路浦添線の緩衝修景緑地として、浦添ふ頭地区において東側緑地の整備を進めます。

また、那覇港のウォーターフロント地区において、「みなとオアシス なは」に登録された各施設の管理者等と連携して、イベントやワークショップの開催により那覇港の魅力を発信して参ります。

### 4) 港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化

大規模地震発生時に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、沖縄県地域防災計画緊急輸送道路に指定されている臨港道路港湾2号線において液

状化対策工事を進めます。

また、老朽化が進む港湾施設の安全性を確保するとともに、予防的な保全により既存施設の延命化を図るため、港内の泊地浚渫、護岸の改修、設備の更新、船客待合所の改修等、港湾施設の計画的な維持管理に取り組んでまいります。

これらの事業を進めるため、平成28年度予算に所要額を計上しております。

以上、平成28年度那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な事業について述べてまいりました。

成長著しいアジアのダイナミズムを取り込み、沖縄県の経済発展と県民生活の向上を図るためには、那覇港の発展は必要不可欠であります。

そのため、今後とも那覇港の効率的かつ適正な管理運営と整備に努め、全力を尽くす決意でございます。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます、私の施政方針いたします。